

劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

成果報告書

(平成30～令和2年度 3か年分)

団 体 名	公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター
施 設 名	兵庫県立芸術文化センター
助 成 対 象 活 動 名	ひょうご舞台芸術魅力拡充事業
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	平成30年度 57,886 平成31年度 53,921 令和2年度 52,659 (千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図 (概念図)

(様式1-2)

4 事業計画の概要

全体図(概念図)

(事業名) ひょうご舞台芸術魅力拡充事業

舞台芸術を通じて人とまちを元気にし、県民の幅広い期待に応えるための3つのミッション(①人々が元気で輝き続けるための劇場、②地域に愛される劇場、③にぎわい拡大の核となる県(圏)域における拠点劇場)を遂行するため、地域の特性・ニーズと芸術文化センターの強みを十分に生かした、ひょうご舞台芸術魅力拡充事業を、4つの観点で踏まえ、次の事業区分に基づき、平成30年度から3か年計画で実施していく。(平成28年度から通算5か年計画)

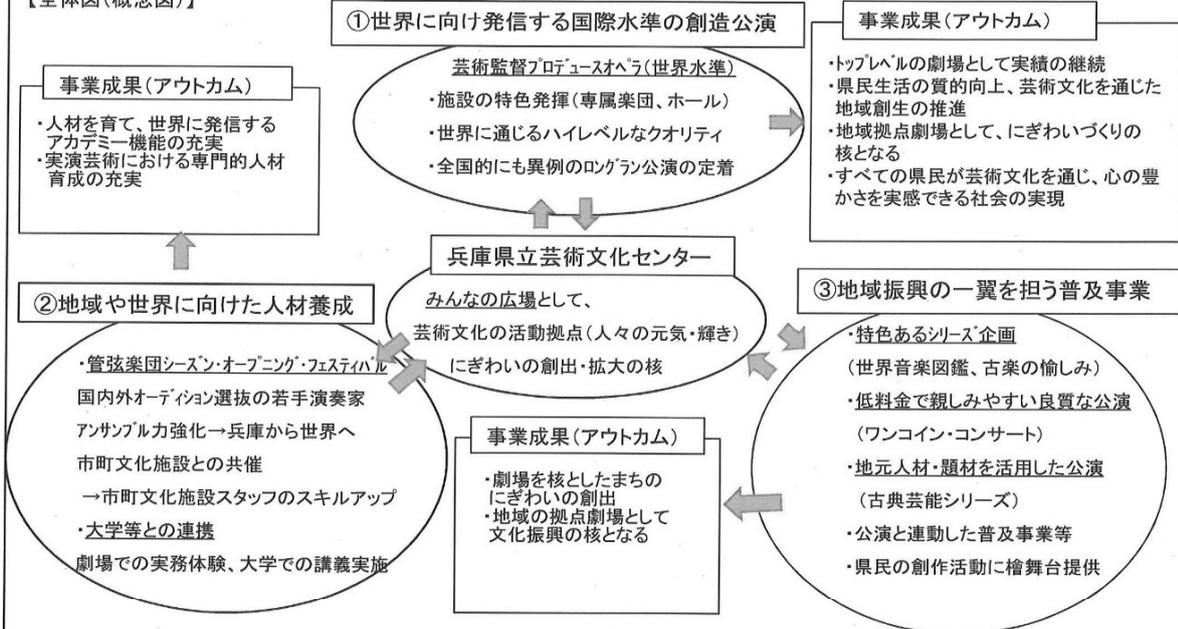
【観点】

- ①文化芸術領域における国際プレゼンスの向上
- ②地域における社会的課題解決に対する寄与
- ③鑑賞及び文化芸術活動を行う国民の拡大
- ④持続可能な創造活動の体制確保

【事業区分(ミッションの遂行)】

- ①世界に向け発信する国際水準の創造公演
- ②地域や世界に向けた人材養成
- ③地域振興の一翼を担う普及事業

【全体図(概念図)】



【事業詳細】

1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演

〈具体的事業〉

佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ

〈事業特色〉

- ・開館以来12年間、芸術監督の経験と芸術文化センターの特色(専属管弦楽団と四面舞台の大ホール)を発揮し、兵庫発のオペラプロジェクトとして新しいオペラファン層を開拓、全国的にも類を見ないロングラン公演を定着(同一会場、同一演目8公演以上)
- ・オペラ鑑賞の初心者から楽しめる親しみやすい演目と低料金に抑えた入場料(戦略的な広報宣伝活動で多回数の公演を実現し、収入を確保)により、オペラファンの裾野拡大
- ・関連事業としてハイライトコンサート、プレクチャー、ワークショップ & バックステージツアー、地域と連携した前夜祭などを実施、総合舞台芸術であるオペラの鑑賞機会拡大や舞台鑑賞力向上、地域の魅力向上とさらなるにぎわいづくりによる活性化を図る。

観点への取組

- ・世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えたオペラ公演を実現し、我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献(観点①)している。
- ・持続的な組織活動(観点④)に基づき、劇場を核とした街のにぎわいの創出(観点②)に寄与するとともに、国民の鑑賞活動の拡大(観点③)を図っている。

2. 地域や世界に向けた人材養成

〈具体的事業(取組)その1〉
専属管弦楽団の設置と「シーズン・オープニング・フェスティバル」の開催

〈事業特色 その1〉
・専属管弦楽団(通称:PAC)の設置
世界各地より選抜した若手演奏家(H29.9現在13か国、平均27歳)で構成、佐渡芸術監督のもとで演奏力を強化し、年間通じて多彩な公演活動を展開、活動退団後、国内外のプロオケ主要メンバーとして転出、世界的な演奏技能向上に寄与
・「シーズン・オープニング・フェスティバル」の開催 オケストラアカデミーの要素を持つPACがシーズン・スケジュールの初め(9月)に、佐渡芸術監督のもと、各パートにスペシャルゲストプレイヤーを招聘し、レベルアップ強化を図る合宿を県内文化施設と共同で開催

観点への取組

・創造集団であるPACの設置・運営は、芸術文化センターが掲げるミッション遂行のための強みであり、持続的な組織活動(観点④)を支える柱であるとともに、アカデミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上を発揮(観点①)
・県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、演奏会の他にもアウトリーチ活動等で、地元住民に鑑賞機会場の設け、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与(観点②、③)するもとともに、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献(観点④)

〈具体的事業(取組)その2〉

大学等との連携
〈事業特色 その2〉
アートマネジメントや舞台技術を学ぶ学生に、舞台制作、広報、音響業務実習等の劇場運営にかかる講義を大学等と連携して実施。芸術文化センターでの現場体験プログラムも取り入れ、これからの舞台芸術を支える専門的人材を育成

観点への取組

芸術文化センターが有する専門的知見を次世代につなげ、さらなる文化芸術領域の発展とそれがもたらす地域における社会的課題解決及び持続可能な創造活動の体制確保を目指す(観点②、③、④)

3. 地域振興の一翼を担う普及事業

〈具体的事業(取組)その1〉
特色あるシリーズ企画 「世界音楽図鑑」「地元人材・題材による古典芸能シリーズ」

〈事業特色 その1〉
日本では鑑賞機会の少ない世界各地の民俗音楽やパフォーマンスをシリーズで紹介(「世界音楽図鑑」) や兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する企画など特色あるラインナップの提供で、県民の幅広い期待に応える。

観点への取組

新たな音楽ファン層や伝統芸能ファンの開拓とともに普及・鑑賞機会の増大を図り(観点③)、地域における社会的課題の解決に寄与する(観点②)

〈具体的事業(取組)その2〉

「ワンコイン・コンサート」、「バックステージツアー」
〈事業特色 その2〉
兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による「ワンコイン・コンサート」は、広範囲な集客を招き、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図る。
子どもを含む幅広い年代を対象に、劇場の舞台費や舞台機構、公演作業の様子等を案内する「バックステージツアー」を開催

観点への取組

・「ワンコイン・コンサート」終了後には多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し消費活動を活発化させるなど、地域のにぎわいづくり、経済波及効果に大きく貢献(観点②、③)
・年6回程度開催する「バックステージツアー」は、舞台の裏側を見せることで、普段、芸術文化に接する機会の少ない人々にも舞台芸術への興味を喚起させるとともに、開催の事業のうち、1回を夏休み中に実施(夏休みの自由研究題材提供等)し、幅広い年代での来館を誘致し、次世代に向けた芸術文化ファンの取込みを展開(観点②、③)

(2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	どんな時も歌、歌、歌！～佐渡裕のオペラで会いましょう	2020年7月23日(木・祝)、24日(金・祝)	[指揮]佐渡 裕(芸術文化センター芸術監督) [ソプラノ] 並河寿美 [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団 ※新型コロナウイルス感染症の影響で事業変更	目標値	20,365
		兵庫県立芸術文化センター-KOBELCO 大ホール		実績値	648※
2	①Meet-HPACリサイタルホールから、②オーケストラ公演の再開に向けて～ディスカッションとデモ演奏～、③PAC 2019-20 シーズンリサイタル室内楽	2020年6月19日(金) 他	佐渡 裕(芸術文化センター芸術監督) 下野竜也(指揮)、川久保賜紀(ヴァイオリニスト/オンライン出演*ディスカッションのみ) ※新型コロナウイルス感染症の影響で事業変更	目標値	830
		兵庫県立芸術文化センター-KOBELCO 大ホール他		実績値	75,515※
3	アートマネジメント・舞台技術人材育成(大学等との連携他)	2020年4月1日～2021年3月31日	林伸光 ゼネラルマネージャー 永富志穂子 事業部長 関谷潔司 舞台技術部長	目標値	-
		近隣大学		実績値	445
4	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ2020	2020年9月9日(日)他	※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止	目標値	3,650
		兵庫県立芸術文化センター-神戸女学院小ホール他		実績値	-※
5	ひょうごの民俗芸能祭「ひょうごのお城と民俗芸能～ぐるっと五国～」	2020年9月5日(土)	※新型コロナウイルス感染症の影響で公演中止	目標値	650
		兵庫県立芸術文化センター-阪急中ホール他		実績値	-※
6	なるほどバックステージツアー2020	2020年12月8日(火)	[監修]小山内秀夫(舞台技術アドバイザー) [解説] 劇場スタッフ ※新型コロナウイルス感染症の影響で事業縮小	目標値	5,550
		兵庫県立芸術文化センター-神戸女学院小ホール		実績値	54※
7	①高本一郎(リュート)ゆったりコンサート、②ワコイン・アンコール・コンサート酒井有彩(ピアノ)、③能囃子コンサート、④ワコイン・コンサート	2020年7月11日(土) 他	[出演者] 高本一郎(リュート) 酒井有彩(ピアノ) 他 ※新型コロナウイルス感染症の影響で事業変更	目標値	22,500
		兵庫県立芸術文化センター-神戸女学院小ホール他		実績値	7,274※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラオン・ザ・タウン	2019年4月4日(木) ～7月28日(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] アントニー・マクドナルド [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	30,670
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール 他		実績値	29,949
2	兵庫芸術文化センター管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバル	2019年9月3日(火) ～7日(土)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [コンサートマスター] 森下幸路 [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	1,080
		明石市民会館		実績値	1,648
3	アートマネジメント・舞台技術人材育成(大学等との連携他)	2019年4月1日～2020年3月31日	[ゼネラルマネージャー] 林伸光 [事業部長] 永富志穂子 [舞台技術部長] 関谷潔司	目標値	-
		兵庫県立芸術文化センター		実績値	108
4	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ2019	2019年5月11日(土) 他	[出演] 北川翔 with 太田智美 ファンファーレ・チョコリニア カントゥス	目標値	2,360
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール 他		実績値	2,947
5	ひょうご能「仲光」	2019年5月19日(日)	[出演] 仲光/上田拓司(西宮市在住) 満仲/上田貴弘(神戸市在住) 地謡/大槻文蔵(文化功労者・人間国宝)	目標値	500
		兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール		実績値	417
6	なるほどバックステージツアー 2019	2019年5月18日(火) 他	[解説] 小山内秀夫 (舞台技術アドバイザー) [案内] 劇場スタッフ_他	目標値	800
		兵庫県立芸術文化センター		実績値	693
7	ワンコイン・コンサート	2019年4月25日(木) 他	[出演] PAC スリングス、古瀬まきを(ソプラノ) 岩谷弦(ヴァイオリン) 他 ※新型コロナウイルス感染拡大防止の為1事業1公演中止(1,946名減)	目標値	18,750
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール		実績値	23,280
8	多言語対応	2019年4月4日(木) ～7月28日(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] アントニー・マクドナルド [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	-
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホール 他		実績値	-

(4) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ魔弾の射手	平成30年7月20日(金)～29日(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] ミヒャエル・テンメ [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	13,436
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール		実績値	12,966
2	兵庫芸術文化センター管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバル	平成30年9月5日(水)～8日(土)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [コンサートマスター] 豊嶋泰嗣 [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団_他	目標値	800
		たんば田園交響ホール		実績値	883
3	アートマネジメント・舞台技術人材育成(大学等との連携他)	平成30年4月1日～平成31年3月31日	[ゼネラルマネージャー] 林伸光 [事業部長] 永富志穂子 [舞台技術部長] 関谷潔司	目標値	-
		兵庫県立芸術文化センター		実績値	136
4	世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ2018	平成30年6月9日(土)他	[出演] オカリナ七重奏団 GOB ナポリマンドリンオーケストラ カニサレスフラメンコ・カルテット	目標値	1,240
		兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール他		実績値	1,500
5	文楽 in Hyogo「恋女房染分手綱」	平成30年5月6日(日)	[出演] 人形浄瑠璃文楽座 太夫/豊竹呂太夫、三味線/鶴澤清友、人形/吉田和生(人間国宝・兵庫県芦屋市在住)_他	目標値	500
		兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール		実績値	636
6	なるほどバックステージツアー 2018	平成30年5月17日(木)他	[解説] 小山内秀夫(舞台技術アドバイザー) [案内] 劇場スタッフ_他	目標値	800
		兵庫県立芸術文化センター		実績値	649
7	ワンコイン・コンサート	平成30年4月24日(火)他	[出演] PAC アンサンブル、内藤里美(ソプラノ)、岩見玲奈(マリンバ)、佛田明希子(オーボエ)_他	目標値	18,750
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール		実績値	25,377
8	多言語対応	平成30年7月20日(金)～29日(日)	[指揮] 佐渡 裕 (芸術監督) [演出] ミヒャエル・テンメ [管弦楽] 兵庫芸術文化センター管弦楽団	目標値	-
		兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール		実績値	-

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が実施できたか。

兵庫県立芸術文化センターは、阪神・淡路大震災からの『心の復興・文化の復興』のシンボルとして設置。芸術文化センター（劇場）に来館し、舞台芸術という非日常を楽しみ、気持ちを新たに日常生活を楽しむ、『舞台芸術を通じて人とまちを元気にする』ことをミッションとし、「みんなの広場」として

①人々が元気で輝き続けるための劇場

②地域に愛される劇場

③にぎわい拡大の核となる県（圏）域における拠点劇場

を掲げ、地域の特性・ニーズと芸術文化センターの強みを十分に生かした、ひょうご舞台芸術魅力拡充事業を実施。下記の実績値より、開館から15年間『街のにぎわい』作りを継続してきた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館もあったが、インターネット配信による新たな取組を実施しつつ、感染症対策を徹底して公演を再開・継続した。

<エビデンス>

(1) 年間イベント数 H30 主催 364・貸館 343、普及イベント 135 計 842

H31 主催 326・貸館 326、普及イベント 98 計 750

R2 主催 178・貸館 140、普及イベント 28 計 346

(2) 年間主催公演入場者数 H30 主催 370,156人（貸館 158,894人、普及イベント等 258,331人計 787,381人）

H31 主催 317,935人（貸館 153,306人、普及イベント等 234,012人計 705,253人）

R2 主催 90,664人（貸館 28,828人、普及イベント等 100,573人計 220,065人）

(3) 開館14年のハイスピードで公演入場者数700万人を達成（元.8）（主催・貸館含む）

開館より50万人/年の公演入場者数を維持してきたが、令和2年度は臨時休館・感染防止対策（客席定員50%など）実施の為公演入場者の大幅減（約12万人/年）となった。インターネット配信による取組など、コロナ渦にあっても劇場が県民の心の拠り所として、劇場を通して人と人との絆をつなぐ事に寄与した。

例) ①「オーケストラ公演の再開に向けて～ディスカッションとデモ演奏～」関係者（マスクミ、劇場、オーケストラ等）のみ

220名参加

再生回数：延べ16,419回（3月11日時点）※インターネットでライブ配信（配信終了後は7-カブ映像にて視聴可）

②「Meet-HPAC リサイクルホールから」（PACメンバーによるオンラインサイトリレー）動画配信数24

再生回数：延べ58,826回（3月11日時点）

(4) 年間ホール稼働日数 H30 331日（施設稼働率 平均97.2%）

H31 321日（施設稼働率 平均92.2%）

R2 228日（施設稼働率 平均81.5%）

(5) 年間経営規模 30億円（通常時）

(6) 公演満足度 H31 97.7%、施設の清潔さ満足度 97.7%

運営によってもたらされる大きな「経済波及効果（生産誘発効果）」（日本総研調査5年毎実施）[H27_3回目実施]

年間効果額 県内71億円（全国149億円）[H22調査 県内71億円（全国145億円）]

* 県投資効果10倍、開館後10年間の運営による累計（推計）県内687億円（全国1,423億円）

* R2_4回目の経済波及効果調査予定であったが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により延期。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

専門性のあるホール（施設）、専門性をもった人材（劇場運営、アートマネジメント、舞台技術）によって地域のニーズに応えた事業・ニーズを掘り起こす事業を実施した。また、国際プレゼンスを向上する事業を実施し、人材育成（基盤整備）に努め（若手出演者への出演機会提供、地元人材活用、他館との連携によるスキルアップ）助成継続に値する。

下記の各事業の達成状況より助成に値する文化的、社会的、経済的意義が継続して認められる。

1. 国際水準の創造公演を通じた世界への発信（文化的意義）

佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラは、世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えたオペラ公演を実現し、我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献。

オペラ鑑賞機会の少ない関西圏域において、質の高い公演を低価格で実現し、ビギナーとリピーターを年々拡充（オペラ鑑賞「今回が初めて」平均 21.3%）。演目も「定番」と「挑戦」を取り混ぜ、平成 30 年度は上演機会の少ない「魔弾の射手」を取り上げ、人間の精神性、現代人の社会的価値観について改めて考える機会を提供した。平成 31 年度は佐渡芸術監督が師事したハンスタイン生誕 100 年を記念し、「生きる喜び」を描いた最初期のミュージカ作品をオペラ仕様で上演、古典以外の演目にチャレンジし、兵庫公演のみならず東京公演の実施により全国へ発信した。また、関連イベント（プレクチャー、県内各地で実施のハイライトコンサート等）も合わせてオペラプロジェクトとして展開し、まちのにぎわいを創出した。

令和 2 年度の「ラ・ボエーム」は、新型コロナウイルス感染拡大により公演を中止したが、複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら、「どんな時も歌、歌、歌！～佐渡裕のオペラで会いましょう」を実施するなど、コロナ禍においても県民が劇場での舞台芸術に接する機会を積極的に提供。NHK（NHK ワールド 9/24（木）NEWSLINE）を通じて世界に発信した。

※新型コロナウイルスの影響でオペラ「ラ・ボエーム」（8 公演）、関連イベント等から「どんな時も歌、歌、歌！～佐渡裕のオペラで会いましょう」（1 公演）に事業変更（目標入場者数 20,365 から実績値 648 へ減）

2. 人材養成事業を通じた地域や世界への貢献（社会的意義）

・専属管弦楽団（通称：PAC）の設置は持続的な創造活動を支える柱であるとともに、アカデミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上を発揮した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で通常の公演活動が行えず、アカデミー要素を十分に果たせないことから、現メンバーの契約期間を 1 年延長した。

・県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、演奏会の他にもアウトリーチ活動等で、地元住民に鑑賞機会の場を設け、地域の音楽文化の熟成と地域のにぎわい作りに寄与するもとともに、県内文化施設スタッフのスキルアップに貢献した。令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大により中止したが、アウトリーチ活動、クリニック等を、インターネットで映像を無料配信することで、①楽団員のアンサンブル力の向上②ブラスクリニックの代わりにコロナ禍における合奏方法の提示、③アウトリーチの代わりにより広範囲の方々へ実演芸術の魅力を届けていく活動を展開した。

・大学等と連携し、芸術文化センターが有する専門的知見を次世代につなげ、舞台芸術界を支える人材育成（基盤整備）に貢献した。

※新型コロナウイルスの影響で「シーズン・オープニング・フェスティバル」から「オーケストラ公演の再開に向けて～ディスカッションとテーマ演奏～」他に事業変更し、新事業はインターネット配信実施の為、再生回数を計上（目標入場者数 830 から実績値 75,515 へ増）

3. 普及事業を通じた地域振興のにぎわいづくり（経済的意義）

・日本では鑑賞機会の少ない世界各地の民俗音楽やパフォーマンスをシリーズで紹介（「世界音楽図鑑」）、また兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する企画など特色あるラインナップの提供で、県民の幅広い期待に応えた。

・令和2年度は「世界音楽図鑑」、開館15周年記念事業として地域の魅力を再発見する「ひょうごの民俗芸能祭」、劇場への親しみを深めていただく「芸術文化センターオープンデー」の実施を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大の影響により公演中止とした。

・新たな音楽ファン層や伝統芸能ファンの開拓とともに、兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による低価格で親しみやすい事業（「ワンコイン・コンサート」、「バックステージツアー」）を実施し、普及・鑑賞機会の増大を図った。

・「ワンコイン・コンサート」は、広範囲な集客を招き、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った。また、コンサート終了後には多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し、消費活動を活発化させるなど、地域のにぎわいづくり、経済波及効果に大きく貢献した。（経済波及効果：県内70億円/年間の継続、関西住みたい街ランキング5年連続1位）

・令和2年度は「ワンコイン・コンサート」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により10事業中6事業のみ実施。また、3事業は感染拡大防止に配慮しながら、「心の広場プロジェクト」として①高本一郎（リュート）ゆったりコンサート、②ワンコイン・アンコール・コンサート酒井有彩（ピアノ）、③能囃子コンサートを実施した。

・年6回程度開催する「バックステージツアー」は、舞台の裏側を見せることで、普段、芸術文化に接する機会の少ない人々にも舞台芸術への興味を喚起させるとともに、開催の事業のうち、1回を夏休み中に実施（夏休みの自由研究題材提供等）し、幅広い年代での来館を誘致し、次世代に向けた芸術文化ファンの取込みを展開。

・令和2年度は「バックステージツアー」は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により4事業中1事業のみ実施。

※新型コロナウイルス感染症の影響で、

・「世界音楽図鑑ワールド・ミュージック・シリーズ」（4事業4公演中止）

（目標入場者数360から実績値0へ減）

・ひょうごの民俗芸能祭「ひょうごのお城と民俗芸能〜ぐるっと五国〜」（1事業1公演中止）

（目標入場者数650から実績値0へ減）

・「芸術文化センターオープンデー」（1日開放）中止、「なるほどバックステージツアー2020」（4事業8公演から1事業1公演のみ実施）

（目標入場者数5,550から実績値54へ減）

・「ワンコイン・コンサート」（10事業15公演）から下記①～④（計9事業10公演）へ事業変更

① 高本一郎（リュート）ゆったりコンサート（1事業1公演）、②ワンコイン・アンコール・コンサート酒井有彩（ピアノ）（1事業1公演）、

③能囃子コンサート（1事業1公演）、④ワンコイン・コンサート（6事業7公演）

（目標入場者数22,500から実績値7,274へ減）

複数の医学的な専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら、公演を再開実施した。

(2) 有効性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムが発現したか。

目標は、『開館から続く実績の安定・継続』であり、平成30・31年度も実績を継続（目標達成）している。また目標を達成したアウトプットよりアウトカムが発現していることが認められる。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により目標の達成が困難であったが、複数の感染症専門家の監修を仰ぐなど、感染拡大防止に最大限配慮しながら、コロナ禍においても県民が劇場での舞台芸術に接する機会を積極的に提供した。

〈事業遂行によるアウトプット〉

- ・世界水準である芸術監督プロデュースオペラをはじめとする多彩な舞台芸術を、多くのファンに支えられながら、高い運営実績を継続
- ・地域における『質の高い』創造芸術の発信を継続（創造性、企画力が高く特色ある実演芸術の継続発信）
- ・親しみやすい良質な公演など『幅広いニーズ』に応える公演を継続発信（幅広い年齢層へのアプローチなど裾野拡大）
- ・専属管弦楽団運営やアートマネジメント研修、若手演奏家の登用など優秀な人材を継続的に養成
- ・県内劇場とのネットワーク、県外劇場と連携、地域舞台芸術団体への支援を継続的に実施

〈上記アウトプットから得られるアウトカム〉

a トップレベルとしての実績の継続

⇒芸術文化センターが発信するソフトへの支持・信頼・ブランドの確立

⇒我が国の実演芸術の水準向上と県民の鑑賞機会の拡大

【指標】

高い運営実績	年間主催公演数 (H30:364、H31:326、R2:178) 年間ホール稼働日数 (H30:331日、H31:321日、R2:228日) プロデュースオペラ公演数 (H30:8公演、H31:12公演 (兵庫8公演+東京4公演) R2:公演中止)
高い集客力	年間公演入場数 (H30:529,050人、H31:471,241人、R2:119,492人) プロデュースオペラ入場者数 (H30:12,966人、H31:29,949人、R2:公演中止)
多彩な集客力	熱心な支持層の形成 (10回以上のリピーター率) (H30:64.2%、H31:55.5%、R2:調査未実施) 新しいファンの発掘 (初めて来場者率) (H30:6.3%、H31:13.3%、R2:調査未実施) 県外観客比率 (H30:52.4%、H31:45.5%、R2:調査未実施)
質の高い公演	主催公演入場率 (H30:91.3%、H31:88.8%、R2:80.7%) 主催公演満足度 (H30:97.5%、H31:97.7%、R2:調査未実施)
鑑賞拡大	毎年初めてオペラを鑑賞した観客割合 10%強 (H30:13.8%、H31:21.3%、R2:調査未実施)

b 県民生活の質的向上、芸術文化を通じた地域創生の推進

c 劇場を核としたまちのにぎわいの創出

⇒劇場運営による経済波及効果及び地域経済活性化の促進

【指標】

にぎわい創出	イベント実績数、街のイメージ向上 (関西住みたい街ランキング)
経済波及効果	生産誘発効果 (県内、全国)、劇場周辺商業動向 (客数、売上) (阪急西宮ガーデンズ全館売上高の9期連続増収が確実_2018.3.27 繊維新聞) (阪急西宮ガーデンズ全館売上高の10期連続増収を達成_2019.5.30 繊維新聞)

周辺商業施設との相乗効果、劇場と同じ地元志向の成果

「仮想評価法」による社会的便益 約 58 億円

多面的広報宣伝 紙面掲載・放送回数、発売記者発表数、交通機関広報数、放送局との事業
共催による放映数

d 世界に人材を育て発信するアカデミー機能の充実

⇒実演芸術におけるスペシャリストの育成、兵庫から世界に向けて優秀な人材を発信

【指標】

専属管弦楽団メンバー これまでの卒団者数（日本人、外国人、国・地域数）
他オーケストラへの入団者数

21 か国 74 楽団(国内 24 楽団)のプロオーケストラ主要メンバーとして 129 人輩出（令和 3. 3. 31 日現在）

H30: コスタリカ国立交響楽団首席、NHK 交響楽団_他

R1: 国立台湾交響楽団首席、蘇州交響楽団（中国）首席_他

R2: アントワープ交響楽団（新型コロナ感染拡大前のオーディションで選抜）

若手演奏家への機会提供 ワンコイン・コンサート実績（公演数、出演者数）

146 事業 216 公演実施（令和 3. 3. 31 日現在）

e すべての県民が芸術文化を通じ、心の豊かさを実感できる社会の実現

⇒お客様の裾野をさらに広げ、一層の劇場のにぎわいづくりを進化（初めての鑑賞者継続拡大）

f 地域の拠点劇場として地域文化振興の核となる

⇒芸術文化を通じたにぎわいづくりを全県に伝播し、文化振興の核となる（県内展開実績）

【指標】

県内文化施設との連携 プロデュースオペラ県内公演数
(H25 県内 4 公演_篠山・洲本・姫路・豊岡、H29 県内公演 2 公演_篠山・姫路)

プロデュースオペラハイライトコンサート公演数
(H30 県内 7 会場_洲本・篠山・明石・養父・宍粟・赤穂・小野)
(H31 県内 4 会場_洲本・三田・丹波篠山・小野)
※R2 は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施無し

県外劇場・団体との連携 連携実績（連携機関数、活動実績）

{
H30 新国立劇場、リ्यूとぴあ新潟市民芸術文化会館、KAAT 神奈川芸術劇場
世田谷パブリックシアター、豊島区舞台芸術交流センター、まつもと市民芸術館
H31 日生劇場、リ्यूとぴあ新潟市民芸術文化会館、KAAT 神奈川芸術劇場
彩の国さいたま、東京芸術劇場、水戸芸術館、世田谷パブリックシアター
R2 東京芸術劇場、KAAT 神奈川芸術劇場、新国立劇場
}

被災地への支援

被災地アウトリーチ実績
(H30_こころのビタミンプロジェクト in くまもと～東北（熊本・宮城・岩手）)
(H31_こころのビタミンプロジェクト in 東北（宮城・岩手）)
※R2 は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施無し

(3) 効率性 (平成30~令和2年度 3か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに実施できたか。

【ひょうご舞台芸術魅力拡充事業と同事業に関連する事業工程表】

年度	月	3か年事業計画						3か年事業計画関連			
		1.創造公演 プロデュースオペラ	2.人材養成 専属管弦楽団		大学等連携 実習生受入(神戸大学他)	3.普及事業 シリーズ企画 ワコインコンサート パジャマシアター			その他自主事業	他機関連携	基盤強化
30	4	オペラハイライコンサート	2017~2018 「シーズン・オープニング・フェスティバル」 ・コアメンバー 14パート48人 (10型2管編成 35歳以下、3年契約 全国・世界各地での オーディションで選抜) (H29.9.1現在 13カ国 14パート42人 平均年齢27歳) *新メンバー契約期間 H29.9~H32.8 19人	大学等への講師派遣(GM他) 実習生受入(神戸大学他)	インターンシップの受入	①PAGアンサンブル	年11回 うち8月回は 夏休み親子参加	シリーズ企画 古楽の愉しみ①	オペラハイライコンサート(洲本)	運営体制の安定継続 優れた人材確保・養成 継続的財源確保 多様な財源確保 施設設備メンテナンス 適時メンテナンス	
	5	ワコイン・ブレイクチャー				古典芸能① 文楽in Hyogo		②内藤里美	シリーズ企画 古楽の愉しみ②		オペラハイライコンサート (多可、たつの、篠山) トライやるウィーク(中学校)
	6					世界音楽図鑑① オカサ七重奏		③岩見玲奈			
	7	本公演7/20~7/29 8公演「魔弾の射手」				世界音楽図鑑② ナホリマドリ		④佛田明希子			オペラ前夜祭&オペライク(地元連携)
	8	翌年度以降作品への制作準備				世界音楽図鑑③ カニサレス		⑤小林杏成			社会人研修(小・中学校)
	9							⑥高橋将純	再掲「シーズン・オープニング・フェスティバル」(篠山)		
	10							⑦池内響	シリーズ企画 古楽の愉しみ③		全国共同制作オペラ「アイダ」
	11							⑧ウイングウィンテット・ソリテ	シリーズ企画 古楽の愉しみ④⑤		
	12							⑨内尾文香	関西二期会「皇帝サタン」の冒険		クリスマスイベント(地元連携)
	1							⑩秋元孝介	シリーズ企画 古楽の愉しみ⑥		
	2										アートマネジメント講座
	3										日本オペラシリーズ「森は生きている」
	4					オペラハイライコンサート					
5	ワコイン・ブレイクチャー					オペラハイライコンサート(未定)					
6					トライやるウィーク(中学校)						
7	本公演8公演程度 「オン・ザ・タウン」 東京公演3公演程度				オペラ前夜祭&オペライク(地元連携)						
8	翌年度以降作品への制作準備	世界音楽図鑑 古典芸能 (演目等未定)	年10回程度 (演目等未定)	年10回程度 うち8月回は 夏休み親子参加	・シリーズ企画 古楽の愉しみ	社会人研修(小・中学校)					
9					再掲「シーズン・オープニング・フェスティバル」(明石市)						
10											
11											
12											
1						アートマネジメント講座					
2	4	オペラハイライコンサート				オペラハイライコンサート(未定)					
5	ワコイン・ブレイクチャー				オペラハイライコンサート(未定)						
6					トライやるウィーク(中学校)						
7	本公演8公演程度 「ラ・ボエーム」				オペラ前夜祭&オペライク(地元連携) 全国共同制作オペラ「トゥーランドット」						
8	翌年度以降作品への制作準備	世界音楽図鑑 古典芸能 (演目等未定)	年10回程度 (演目等未定)	年11回程度 うち8月回は 夏休み親子参加	・シリーズ企画 古楽の愉しみ(未定) ・日本オペラシリーズ(未定)	社会人研修(小・中学校)					
9					再掲「シーズン・オープニング・フェスティバル」(未定)						
10											
11											
12											
1						アートマネジメント講座					

①事業期間：3年間【目標値】36,000人

1年間(4月~3月)を通じたラインナップを編成(管弦楽団は9月~8月のシーズン制)し、芸術監督プロデュースオペラ(7月)とともに、幅広いニーズに対応した多彩・多様な事業展開を計画通り継続して実施し、入場者数・参加者数と目標値を上回っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、インターネット配信再生回数も計上している。

【30年度実績】42,147人

【31年度実績】59,042人

【2年度実績】83,936人(うち、インターネット配信の再生回数75,245含む)

事業期間は適切で、当初の計画通りに進んでいる。

事業期間にアウトプット（有効性で掲出）を着実に算出しており、「開館から続く実績の安定・継続」という目標に沿って運営を行っている。

②【30年度実績】収支予算：275,587千円

収支決算：272,656千円

収支予算との差は△1.1%であり、事業費は適切で当初の計画通り進んでいる。

【31年度実績】収支予算：403,954千円

収支決算：408,911千円

収支予算との差は1.2%であり、事業費は適切で当初の計画通り進んでいる。

【2年度実績】収支予算：274,885千円

収支決算：18,221千円

収支予算との差は△93.4%である。新型コロナウイルス感染症の影響でオペラ「ラ・ボエーム」を含む多数の事業が中止となった為大幅に減少。

(4) 創造性 (平成30～令和2年度 3か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている (と認められる) か。

『舞台芸術を通じて人とまちを元気にする』

- ・人々が元気で輝き続けるための劇場
- ・地域に愛される劇場
- ・にぎわい拡大の核となる県 (圏) 域における拠点劇場

劇場が「みんなの広場」となることをミッションとし、そのミッション遂行の為の強みとなる、次の資源を有しながら全国的に例のない”にぎわい”を実現

① 本格的大型舞台芸術劇場 (ソフト・ハード 一体運営、安定的ソフト展開と安全・安心・快適な施設運営)

⇒タイプの異なる大・中・小の専門ホールを有していることで、本格的な (世界水準・オールジャパンクラス) の舞台芸術の上演 (佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ他) を実施する事が可能となり、国内外の第一級のクリエイティブスタッフと出演者による世界に通じるハイレベルなクオリティを維持している。

- ・平成 28 年度に大規模修繕工事を実施 (H29.1~3)。舞台機構更新を中心にしつつ、中ホール客席に車いす昇降機を設置し、車いす来場者の前側席の鑑賞を可能とした。
- ・平成 29 年度、ふるさとひょうご寄附金を活用し、客席通路の勾配が急である中ホール客席 (1 階) 通路に手摺取り付け工事を実施し、お客雅の安全性と利便性の向上を図った。
- ・平成 31 年度、ふるさとひょうご寄附金を活用し、誰もが快適に舞台芸術を楽しめるよう館内に木製ベンチを増設した。
- ・令和 2 年度、お客様対応の品質向上の為にチケットシステムの改修、ホームページのスマートホン対応、電話交換機の改修を実施

② 創造集団としての専属管弦楽団の創設・運営 (芸術監督プロデュースオペラなどセンターの特色発揮)

⇒専属管弦楽団 (国内外オーディションで結集、多国籍からなる若手演奏家) を活用し、わくわくオーケストラ教室の実施 (兵庫県内の中学 1 年生 (約 5 万人全員) ホールでの鑑賞)

県内劇場とのネットワーク形成・県内外での公演、県内アウトリーチ活動など、「パブリックシアター」にふさわしい多彩な活動を展開し、地域における音楽文化の発展に寄与。

③ 芸術監督等の芸術経営のプロフェッショナル配置 (芸術監督: 佐渡裕、ゼネラルマネージャー、舞台技術陣)

⇒芸術家・専門家-行政・劇場-県民・地域のコラボレーションとして稀な成功例。

要因: 首長 (館長: 井戸県知事の先頭に立つ姿勢) と地域定着 (芸術監督の普及活動)

③ 芸術文化センター応援団 (先行予約会員 (6 万人)、地域住民地元企業)

⇒自主企画事業の充実、広報宣伝などセンターの多彩な活動に賛同し支援をいただけるネーミングライツをはじめとした地元企業からの賛助。地域住民、先行予約会員の方に支えられて事業を実施。

国内外での評価 ～荣誉ある評価～

【主な受賞】

- ・関西元気文化圏ニューパワー賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H19. 1. 11 関西元気文化圏推進協議会]
- ・関西元気文化圏賞特別賞 [H23. 1. 20 関西元気文化圏推進協議会]
- ・地域創造大賞（総務大臣賞） [H23. 1. 21 (財)地域創造]
- ・神戸新聞平和賞「佐渡裕と兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H23. 5. 3 (株)神戸新聞社]
- ・関西元気文化圏賞 10周年記念特別賞「佐渡芸術監督」[H25. 1. 22 関西元気文化圏推進協議会]
- ・ミュージック・ペソクラブ音楽賞「兵庫芸術文化センター管弦楽団」[H29. 4. 24 ミュージック・ペソクラブ・ジャパン]
- ・貝原俊民美しい兵庫づくり賞「佐渡裕とスーパーキッズ・オーケストラ」[H29. 11. 22(一財) 地域政策研究会]
- ・関西元気文化圏賞ニューパワー賞「スーパーキッズ・オーケストラ」[H31. 1. 22 関西元気文化圏推進協議会]
- ・第44回神戸キワニス青少年ボランティア賞[R元. 12. 4 神戸キワニスクラブ]

【感謝状】

- ・西宮市消防局（芸術文化センターにおける消防用設備の充実と、職員への防災教育の徹底により、消防行政の推進に貢献している功績に対して）H27. 3. 6
- ・宝塚市（1月17日宝塚市犠牲者慰霊式でのPACメンバーの追悼演奏に対して）H27. 3. 14
- ・(公財)音楽の力による復興センター・東北（復興のシンボルとしての新音楽ホール創設(仙台市)に向けた支援や、東日本大震災復興祈念の継続的な取組に対して）H28. 3. 11

【海外からの評価】

- ・2012年芸術監督プロデュースオペラ「トスカ」で、芸術文化センターが制作したプロダクション（演出、舞台装置、衣装、照明、映像）により、トリノ王立歌劇場で、2016年2月から10公演上演され、ボローニャ劇場で2017年12月8公演上演された。国内制作されたオペラプロダクションが海外、中でもヨーロッパ有数の名門歌劇場の本公演として上演されることは極めて稀で（日本オペラ史上初）芸術文化センター制作のオペラ水準の高さ（国際レベル）を示すとともに、海外の実演芸術団体とのつながりを、より一層向上。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につなげた（と認められる）か。

ひょうご舞台芸術魅力拡充事業

1. 世界に向け発信する国際水準の創造公演

①佐渡芸術監督企画によるプロデュースオペラ

⇒・世界トップレベルのキャストやスタッフの招聘により、兵庫から世界に向け、国際水準の芸術性を備えたオペラ公演を実現し、我が国の実演芸術の国際プレゼンスに貢献。

（「舞台・音楽とも世界水準しのぐ」2018. 8. 14_日本経済新聞）

（「生誕100年 古典への昇華」2019. 8. 23_読売新聞）

（「バーンスタインのミュージカル、佐渡裕がオペラに」2019. 8. 23_日本経済新聞）

・日本オペラ界では異例のロングラン公演を継続（8～10公演）

・芸術文化センター公演に加え、県内ツアーを実施し（H25「セリユの理髪師」県内4公演

H29「ワグネルの結婚」県内2公演、H26より県内各地で「ハイライトコンサート」）、鑑賞者開拓を実施。

・新たな試み（シングルキャストへの挑戦）、上演機会の少ない作品を取り上げ新たな観客の掘り起しを実施（H28「夏の夜の夢」H30「魔弾の射手」）。

・持続的な創造活動に基づき、劇場を核とした街のにぎわいの創出に寄与するとともに、住民の鑑賞活動の拡大に貢献。

（「オペラ楽しむ街」2018. 8. 23_朝日新聞）

・コロナ禍にあっても複数の医学的な専門家の監修を仰ぎ、空調設計の専門家、声楽の研究者らの助言を受け、科学的な根拠を積み上げ、公演を実施し、民が劇場での舞台芸術に接する機会を積極的に提供。NHK（NHKワールド9/24（木）NEWSLINE）を通じて世界に発信。

（「対策万全思う存分オペラ」2020. 7. 30_神戸新聞）

（「合唱再開あの手この手」2020. 8. 19_毎日新聞）

2. 地域や世界に向けた人材養成

②専属管弦楽団の設置と「シーズン・オープニング・フェスティバル」の開催

⇒・創造集団である楽団の設置・運営は、芸術文化センターが掲げるミッション遂行のための強みであり、持続的な創造活動アカデミー機能として世界に向けて優秀な人材を輩出することで、国際プレゼンス向上に貢献。

・県内各地域で行う「シーズン・オープニング・フェスティバル」は、演奏会の他にも芸術監督による地元中学生への公開ブラスクリニック、楽団アウトリーチ、公開リハーサルの実施等の地元住民との交流を通じて、地域の音楽文化熟成とにぎわいづくり、県内市町村文化施設スタッフのスキルアップに貢献。

（「劇場と竹が一体になった広報やアウトリーチが行き届き、地元で愛されているのが分かる」

2017. 10. 7_神戸新聞）

③令和2年度は新型コロナ感染拡大により「シーズン・オープニング・フェスティバル」を中止したが、インターネットで映像を無料配信することで、①楽団員のアンサンブル力の向上②ブラスクリニックの代わりにコロナ禍における合奏方法の提示、③アウトリーチの代わりにより広範囲の方々へ実演芸術の魅力を届けていく活動を展開した。

（「音楽生む喜びへ一歩」2020. 6. 24_毎日新聞）

(「新しい演奏様式」挑む決意 2020. 7. 3_読売新聞)

④ アートマネジメント・舞台技術人材育成 (大学等との連携他)

⇒芸術文化センターが有する専門的知見を次世代につなげ、さらなる文化芸術領域の発展とそれがもたらす地域における社会的課題解決及び持続可能な創造活動の体制確保に貢献。

3. 地域振興の一翼を担う普及事業

⑤特色あるシリーズ企画 「世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ 2018」

⑥地元人材・題材による古典芸能シリーズ文楽 in Hyogo「恋女房染分手綱」

⇒日本では鑑賞機会の少ない世界各地の民俗音楽やパフォーマンスをシリーズで紹介(「世界音楽図鑑」)、また兵庫県ゆかりの演目や人材を古典芸能で取り上げ、地域の魅力を再発見する企画など特色あるラインナップの提供で、県民の幅広い期待に応え、新たなファン層の開拓とともに普及・鑑賞機会の増大を図り地域における社会的課題の解決に寄与。

⇒⑤、⑥は日本人のみならず外国人にとっても魅力的なパフォーマンスであり、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの一環として位置づけ、日本の伝統文化を兵庫から発信し、インバウンドへの効果を更に向上。

⑦「ワンコイン・コンサート」

⇒・兵庫・関西ゆかりの新進気鋭の音楽家による親しみやすいプログラム、低額入場料(500円)公演は、広範囲な集客を招き、舞台芸術ファンの裾野拡大と若手演奏家への演奏機会の提供による人材育成を図った。
・演奏会終了後には、多数の来館者が周辺の商業施設を回遊し、商業・飲食等の関連消費を活発に行うなど、地域のにぎわいづくり、経済波及に大きく貢献。

⑧「バックステージツアー」

⇒・子どもを含む幅広い年代を対象に、劇場の舞台費や舞台機構、公演作業の様子等を案内し、舞台の裏側をみることで、舞台芸術への興味を喚起し、幅広い年代での来館を誘致し、次世代に向けた芸術文化ファンの取込みを展開。

(「復興の象徴」は 2015. 8. 21_朝日新聞)

(「文化復興 兵庫がシンボル」2020. 1. 6_読売新聞)

【地域との連携】

・芸術文化センターを核とした地元商店街等による「西北活性化協議会」を設立し、地域と連携した様々なイベントを実施し、街のにぎわいを創出。

例) 前夜祭: オペラ開幕の前日に、芸術文化センター前庭でオペラにちなんだダンスや歌による前夜祭実施。芸術監督も加わり地域の夏祭りとして定着。音楽による地域の活性化に貢献。

クリスマスイベント: 次年度のオペラにちなんだイベントを実施。地元商店街等と合同のクリスマスイベントを複数会場(芸術文化センター前庭、にしきた駅前公園、阪急西宮ガーデンズ)で実施。芸術文化センター前庭でイルミネーションの合同点灯式実施。

・県内外からのお客様対応向上の一環として、日頃から関係の深い地元企業職員等をホールに招き相互研修会を開催。

例) 阪急タクシー、阪急西宮北口駅と連携実施(センターの概要説明、公演鑑賞)

【公立ホール等との連携】

- ・兵庫県公立文化施設協議会会長（事務局）、全国公立文化施設協会近畿地区支部委員、公共劇場舞台技術者連絡会副会長として県内外ホール間の連携を深めた。

【主な全国の公立ホール整備への支援】 * 下記例示。その他、全国から視察を受入。

センター職員の委員就任や視察受入、講演等を通じてアドバイス。

- ・仙台市（宮城県）、堺市（大阪府）、枚方市（大阪府）、高槻市（大阪府）、姫路市、札幌市

(5) 持続性（平成30～令和2年度 3か年分）

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「組織」「資金」「ハード」の中長期的安定・維持の取組

【組織体制】

[基本的な考え方]

- ・多彩で魅力ある舞台芸術の創造発信とともに、安全・安心・快適な劇場空間、適正で効率的な劇場運営を支える体制を構築
- ・優秀な人材の確保・育成（継続雇用）を図りながら、円滑な世代交代を実施
- ・センター有期雇用者の中からプロパーに選抜し、正規雇用率を引き上げ中
（開館時7割→現在6割→目標7割）

① 組織（事務局：4部体制）

館長（知事）・芸術監督 — 副館長 — ゼネラルマネージャー
事務局長 — （事業系部門）

- ① 楽団部（兵庫芸術文化センター管弦楽団の運営）
- ② 事業部（主催公演、普及事業の企画制作実施）
- ③ 舞台技術部（舞台運用）

（管理系部門）

- ④ 総務部（経理会計、労務管理、貸館、施設維持管理）

② 人材の確保

- ・ 県指定管理料・補助金（県予算、定数）と独自財源（運営収入）により必要人材を確保
- ・ 職員の採用は主に公募選考による
- ・ 能力適正評価により中核職員を管理監督職へ登用（昇格）
- ・ 内部選考によりスタッフ職を中核職員へ採用（無期雇用化・正規化）
- ・ OB（定年退職）の再雇用 → ノウハウ等の継承、円滑な世代交代

③ 人材の育成

- ・ 管理監督職、専門人材等を中心にOJTを実施
- ・ OB職員（専門人材）の業務を人材の育成に重点化
- ・ 主催研修（アートマネジメント講習等）、外部研修へ積極参加、
外部： 国内専門家フェロシップ（芸団協、文化庁委託）、ステージラボ（地域創造）、全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会（全国公文協）ほか技術研修会など
- ・ 部門間、法人（兵庫県芸術文化協会）内での人事交流
- ・ 委託事業者との密な情報・意見交換 → 切磋琢磨によるホスピタリティの向上等

【ネットワーク構築】

①劇場・音楽堂等間のネットワーク形成

- ・オペラハイライトコンサート、楽団シーズン・オープニング・フェスティバルを県内施設で実施
芸術文化センタースタッフによるステージマネジメントの支援や様々な角度での交流を行い、市町文化施設職員のスキルアップに貢献
- ・他の文化施設からの研修生受け入れ

H22（財）西宮市文化振興財団、H23（財）札幌市芸術文化財団、H25（公財）愛知県文化振興事業団
H26 豊岡市民会館、H27 水戸芸術館、H29（財）札幌市芸術文化財団、神奈川県民ホール、H30 静岡交響楽団
R1 神戸新聞松方ホール、武豊町民会館（愛知県）、R2 実績無し

②教育機関とのネットワーク形成

- ・大学や講習会等の講師として職員（アートマネジメント、舞台技術）の継続派遣
- ・アートマネジメント研修生（地元大学生）、インターンシップ、職業体験（中高生）の受入
- ・わくわくオーケストラ教室の実施（兵庫県内の中学1年生（約5万人全員）ホールでの鑑賞）
- ・楽団による小学校アウトリーチ（特別支援学級含む）

【経営安定化戦略】

- ・指定管理料、補助金で維持管理費（人件費含む）を確保
- ・事業費も補助金でベース資金を確保
- ・各種公演ごとに協賛金、民間助成金の獲得努力
- ・ネーミングライツ、賛助会員（地元企業の応援）の獲得・継続努力

委託業者間とのミーティング（週1回）、経営会議（月2回）等による部門間の総合調整を行い
運営委員会（年1回）で中長期的方針を決定。

安定した事業実施の為に、施設・設備の適正なメンテナンス・改修計画を策定、実施。